



レジデントからのメッセージ



内科系

ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

奥富 由貴先生



私が思う当センターの魅力について、少しでも伝えられますよう僭越ながら紹介させていただきます。

○先生方が優しく教育体制が充実している

当センターの先生方はどなたも教育熱心だと思います。チームの上級医だけでなく同じ科内の先生であればどなたであっても丁寧に教えてくださり、屋根瓦式の教育体制と謳われるように、特に自分に比較的近い年度の先生方には大変お世話になりました。下の学年が入職してきて教える立場になると、良い刺激になりもっと勉強しようという意欲にも繋がります。また研修中に習得すべき手技はもちろん、大学病院らしくチームのカンファランスから学会の発表まで幅広くプレゼンする機会もあり、そうして身につく力は今

後必要となる大きな武器だと思います。

○学閥がなく同期の仲も良い

自治医大の性質上、当センターには様々な大学から人が集まります。そのため学閥を意識したことがなく、特に他県から来る方には働きやすい環境であると思います。科の垣根が低い、診療科を超えてのコンサルトがしやすいという点は、スーパーローテートする私たち研修医にとって一番大きな収穫ではないでしょうか。また、同期の仲が良いという点も、お互いを支えあい刺激しあい、より良い研修生活を送るためにとても大事だと思います。単純な病院設備だけでなく、こうした人間関係も非常に大きな影響をもつため、実際に見学した際にしっかり確認していただきたいと思います。

○診療科が多く高度な医療にも携わる

私が選択した内科プログラムではすべての内科をみることができ、全身を総合的にみる力がつくという魅力があります。内容としても、大学病院でも市中病院でもある当センターの特徴から、academicな症例からcommonな症状まで幅広くみることができます。様々なプログラムが用意されているので、自分に合った研修生活を見つけてみてください。

百聞は一見にしかず、です。ぜひ一度見学にいらしてください。



外科系

ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

川幡 大嗣先生



私が当センターを志望した理由は将来志望する科の手術件数が多い為と単純なものでした。

外科コースでは外科専門医に必要な3領域(心臓血管外科、一般・消化器外科、呼吸器外科)のローテーションが必須であり、各々の科の手術件数はとても多い為、外科専門医の取得に必要な症例数を初期研修医中にある程度稼ぐこともでき、後期研修からはSub Specialityに専念できるというのも当センターの特徴ではないでしょうか。また、それぞれの科での膨大な手術件数のおかげで我々初期研修医でも手術に関してのある程度の手技を修練できるというメリットがあります。私の同期には外科コースが8人いますが、休日等に皆で結紮・縫合などの基本的手技を練習しあったのも良い思い出です

が、その甲斐もあってか当センターの初期研修医の基本的な手術手技のレベルは高いと思います。毎日夜間の緊急手術の機会があれば我先に見学・参加し語り合うMotivationの高い同期が多いです。

また、初期研修医はローテートしている科にかかわらず、救急当直を2年間通して行います。当センターは救命救急センターに指定されており、3次救急では重症な救急搬送が多くあります。経験の少ない初期研修医だからといって片隅で見えていたり簡単な手伝いしかできない、といったことはなく、1年目から中心となって診療に参加することもできます。CVカテーテル挿入やAライン挿入などの手技もやる気さえあればかなり早い段階からたくさん経験することができます。また、2次救急の比較的軽症な救急搬送も多く、所謂common diseaseに関しても多く経験することもできます。

当センターは各科の垣根も低く、他科の先生に気軽に相談できるというのも特徴的です。担当の患者さんのこと以外でも気になったことなど相談すれば熱心に教えてくれる先生も多いです。また、学会発表等の機会も多く、ローテートする診療科で幅広い経験ができると思います。当センターではあなたの意欲次第で様々な経験ができます。是非一度見学に来て頂ければと思います。



外科系

ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)

鈴木 理大先生



おそらく皆さんは研修病院を考える中で、何を決め手とすればよいのか悩まれていることと思います。ここでは私が実際に外科系をローテーションして、研修病院として魅力に思ったことをお伝えできればと思います。

私がいくつかの診療科を回って共通して感じたことは、上級医の先生方は優秀で、かつ診療業務・手技等で沢山のチャンスがあるということです。研修病院を決める際に、大学病院だと手技のチャンスが少ないんじゃないか?なんて思っている人は多いと思いますが、当センターは市中病院の特色も持ち合わせていることに加えて、上記のように上級医が研修医に経験させようという雰囲気があり、そんな心配は必要ありません。

また私がいい環境だなと感じる部分としては、総合病院であり殆どの診療科が網羅されていること、どの診療科もコンサルトの垣根がとても低い

ことです。研修医は知識・経験ともに浅く、日々の診療業務でどうしても良いのかわからなくなることも少なくありません。そんな時に、当センターのように気軽に何処へでも相談できる環境があれば、問題を先送りすることも少なく、ローテーション中の分野とは別分野のことも同時に学ぶことも可能です。

プログラムに関しては、外科系ローテーションでは自由選択できる期間は3カ月間であり、将来の志望科がおおよそ固まっている人(私もそうですが、、、)はもっと長く志望科を回りたいと思う人も多いと思います。しかし研修で改めて感じたのは、専門性の高い診療をしていても必ず他の診療科で学ぶ知識は必要であり、主治医(担当医)になる限りは全体をマネジメントする必要があるということです。そのために初期研修で様々な診療科で学ぶことは非常に重要であり、それが元々プログラムで決まっているのであれば、どこを回るか悩む必要もなくなります。(要は楽なんです。)

他にも、救急車が多い・循環器系や血液内科が強い・大宮という立地などなどアピールできる点がありますが、その辺りは見学に来ていただければ感じていただけたと思います。

兎にも角にも百聞は一見に如かず!是非見学に来ていただければと思います。

旭川医科大学	福島県立医科大学	昭和大学	北里大学	福井大学	京都府立医科大学	高知大学	宮崎大学
札幌医科大学	筑波大学	帝京大学	東邦大学	山梨大学	和歌山県立医科大学	福岡大学	琉球大学
北海道大学	獨協医科大学	東京大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	鳥取大学	産業医科大学	
弘前大学	自治医科大学	東京医科大学	東海大学	岐阜大学	島根大学	久留米大学	
岩手医科大学	群馬大学	東京慈恵会医科大学	新潟大学	浜松医科大学	川崎医科大学	佐賀大学	
秋田大学	埼玉医科大学	東京女子医科大学	富山大学	愛知医科大学	山口大学	長崎大学	
東北大学	千葉大学	日本大学	金沢大学	三重大学	徳島大学	熊本大学	
山形大学	杏林大学	日本医科大学	金沢医科大学	滋賀医科大学	香川大学	大分大学	



小児科プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)
渡辺 英伸先生



まずは当センターでの研修の大きな利点について説明したいと思えます。当センターは大学の附属病院でありながら市中で診るようなcommon diseaseを多く診れるという側面があります。もちろん附属病院であるため専門性の高い疾患も診る機会があります。そのため、大学病院と市中病院で研修することの利点を両方兼ね備えている病院と言えます。また、当センターでは2016年より救命救急センターが立ち上げられ、初期研修医は月4回ほどの宿直が義務付けられているため多彩な患者さんの初期対応を行うことができます。緊急性の高い疾患の初期対応は経験が求められることが多いためこの点は他院に比べて大きな利点だと思います。

これらはほかのプログラムにも共通する当センターのプログラムの利点です。掲載している他の方も説明していると思しますので、

私は当センターの小児科プログラムの利点について紹介させていただきます。小児科プログラムでは、4ヶ月間の小児科研修を行います。当センターの小児科では大学附属病院ではありますが、専門性の高い疾患だけでなくcommon diseaseも診ています。小児科は他科と違い、まず小児の全身を診れた上でさらに小児循環器、小児アレルギーなど、sub-specialityを学んでいきます。そのため、小児科疾患を広く扱っている当センターの小児科は将来小児科を考えている方にはまさにうってつけの環境と考えます。

また、当センターの小児科では超音波検査に力を入れていることも特徴の1つです。超音波検査はCTなどに比べて侵襲性がなく小児科領域では今後注目されていくであろう検査の1つです。超音波検査は機械があればどこでも行える利便性の高い検査ではありますが、実施者の技量による部分が大きいところが欠点です。当センターでは超音波検査を医師自ら行っており、他院に比べ超音波に触れる機会が多くあります。上級医の先生方も親切に教えてくださるため他院に比べ技量を身につけられると考えます。

簡単にですが当センターの魅力の説明させていただきましたが、他にもここでは語りつくせないほどの多くの魅力のある病院ですので、ぜひ一度当センターに見学に来てください。



産婦人科プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)
田村 早希先生



私は大学での臨床実習で出産現場に立ち会った時の感動が忘れられず、家族やスタッフと共に喜びを共有できる産婦人科に進みたいと思えました。しかし東京のような医師が豊富にいる地域ではなく、産婦人科医が全国で最も少ない地域で働く方が症例数も豊富で研鑽できる環境だと考え、大宮に所在する当センターの産婦人科コースを選択しました。

まずは当センターの産婦人科コースの魅力を伝えたいと思えます。産科では経験豊富な指導医の下で妊娠前のエコーなどの手技はもちろん、経膈分娩後の膈壁縫合や帝王切開もできる機会があります。婦人科では腹腔鏡の手術を中心に数多くの症例に触れることが可能です。またやる気があれば、学会発表をする機会も与えてもらえます。自身の熱意があ

れば手技や手術、発表の経験ができる、それが産婦人科コースの最大の魅力なのではないかと感じています。

また当センターのその他の魅力について紹介します。第一に科当直はなく、2年間救急当直を行います。三次救急であるために様々な症例や緊急時の対応を学べ、かつ屋根瓦式なので教育熱心な指導医に分からないことを質問し、症例をフィードバックしながら次に活かします。第二に総合回診やFujimoto教授の英語カンファレンスなどプレゼンテーションをする機会がたくさんあることでプレゼンテーションの基礎を学ぶことができます。私は将来留学したいという目標があるので、英語に触れる環境は最高の環境だと思っています。

そして第三に真面目な同期に囲まれながら、それぞれの専門科にモデルプランとなるような上級医が多数おります。初期研修で医師のあり方がほぼ決まるとよく言われていますが、当センターは自分の能力が最大限発揮できる環境で豊富な症例を経験し、仲間と切磋琢磨しながら充実した2年間を過ごすことができます。まずは一度働いている研修医を見て、病院の雰囲気を感じてください。一緒に働ける日を楽しみにしています。



ホスピタリスト重視プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成29年入職)
吉田 泰徳先生



医師としての最初の一步を踏み出す上で初期研修をどこで送るのかはとても重要です。私がこのホスピタリストコースを選択して良かったと思う点は、優秀で指導熱心な上司に恵まれ、時には辛いこともある初期研修を共に乗り越えていける同期と出会えたことです。そして、大学病院と市中病院をバランスよく研修できるこのプログラムは、あなたが将来generalist、specialistの何れを目指すにしてもきつと役に立つものだと思います。当センターでは大学病院らしく様々な症例を経験することができ、先端的な医療にも触れることができます。各種レクチャーやカンファレンスが充実しているため勉強するにはもってこいの環境です。各専門科が揃っているた

めマイナー科に興味があっても研修を行うことが可能です。一方、さいたま市民医療センターでは所謂Common diseaseを数多く経験できます。内科ローテーション中も週2回の当番日と週1回の当直で救急医療に数多く触れるため、問診、診察、検査を解釈して診断を考えるトレーニングを数多く積むことができます。毎朝行われる内科全体のカンファレンスでは自分が担当した症例をフルプレゼンするためプレゼン能力も大いに培われます。カンファレンスではそれぞれの症例に対してフィードバックが頂けるため、やりっぱなしにならず今後の診療に活かすことができます。また、患者さんのADLや社会背景を考え、ソーシャルワーカーさんと相談しながら退院先を決定するといった、医療に留まらず患者さんの生活全体をコーディネートするという貴重な経験も積ませてもらえます。さいたま市民医療センターでは小児科を3ヶ月ローテートするため子どもから大人までを診るgeneralな力を身につけることができます。将来どの科に進むにしろ、このホスピタリストコースはあなたの医師としての土台を作るうえで非常に優れたプログラムであると言えます。もし興味を持って頂いたら是非見学にいらして下さい。